

平成28年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT28243 プログラム名 最古の寺院・飛鳥寺～瓦から古代日本のお寺を知ろう～



開催日：平成28年8月2日(火)
実施機関：関西大学
(実施場所) 千里山キャンパス
(第1学舎A号棟 実験・語学教室2)
実施代表者：米田 文孝
(所属・職名) (文学部・教授)
受講生：小学生25名
関連URL：http://www.kansai-u.ac.jp/mt/archives/2016/08/post_2175.html

【実施内容】

◆プログラムの実施で留意・工夫した点

プログラムを効果的かつ円滑に実施・遂行するため、以下の諸点に留意・工夫した。

- ①事前に小学校社会科の教科書の記述内容を検討するとともに、実施分担者や実施協力者とも協議を重ね、小学生がプログラムの実施内容を総合的に理解できるよう、基本的な実施内容とスケジュールを策定した。
- ②実践的な講義を展開する目的から、実習教材として実際に古代寺院の修復作業で使用されていた石膏型による古代瓦製作を中心に、飛鳥時代に関する「考古楽カルタ」や、飛鳥寺を主題にした紙芝居の観覧を行った。
- ③実施当日には受講生6～7名を1班とする合計4班で行動した。各班には、受講生に個別対応・支援する役割の実施協力者(2名)を配置した。なお、各班の編成は、受講生の学年や実施協力者の力量などを勘案して事前に編成し、入念な事前準備を行った。
- ④事後学習用として、飛鳥時代・地域に関する冊子資料を配付した。プログラム終了後には、受講生にお礼状とともに、四神着ぐるみとの記念写真を送付した。

本プログラムは2部構成とし、講義を受けてからワークショップに参加することで、基礎的な知識を事前に修得するとともに、体験学習での学びを深め、受講生の集中力を維持できるように工夫した。また、受講者が小学生であることを考慮し、約1時間ごとにこまめな休憩を入れるように配慮した。

第一部(午前)の冒頭には、飛鳥時代の特徴に関して包括的に理解してもらう目的から、専門用語に頼らず、写真を中心としたパワーポイントによる講義を行った。その後はCGムービーと紙芝居を用い、視覚的・聴覚的に訴えることで、今回の主題である飛鳥寺についての知識を深められるようにした。これらの事後には飛鳥クイズを行い、講義に対する受講生の理解度が確認ができるように配慮した。

第二部(午後)では、受講生の自発性と協調性の促進を目的に、2つのプログラムを準備した。

1つ目には、古代瓦の石膏型を用いた瓦製作のワ



瓦についてのミニ講義

ークショップを行った。ワークショップの前には屋根瓦の文様の意味や葺き方の歴史の変遷などについてミニ講義を行い、瓦葺建物の意味について解説した。

続いて2つ目として、飛鳥時代の歴史や遺跡、遺物を素材にした「考古楽カルタ」を用いたカルタ大会を行った。このカルタ大会は、ゲームを通じて受講生が飛鳥時代を包括的に理解・再確認する目的から、プログラムの最終段階で実施した。プログラム終了後には、修了証書の授与式と記念写真の撮影を行い、解散した。

◆プログラム当日のスケジュール

- 9:30～10:00 開場・受付開始(千里山第1学舎 A 号棟エントランスポーチ前)
- 10:00～10:10 開講式(挨拶・セミナーの趣旨、科研費の説明)
- 10:10～10:45 ミニ講義「飛鳥時代ってどんな時代？」
- 10:45～11:00 CG ムービー「飛鳥寺と飛鳥大仏」鑑賞会
- 11:00～11:10 休憩①
- 11:10～11:25 パペットによる紙芝居「飛鳥寺」上演
- 11:25～12:00 挑戦！飛鳥クイズ
- 12:00～13:30 大学食堂での昼食・休憩②
- 13:30～14:30 ワークショップ①「古代瓦製作体験」
- 14:30～15:00 クッキータイム(受講生・ご父母との懇談)
- 15:00～16:00 ワークショップ②飛鳥「考古楽カルタ」大会
- 16:00～16:10 休憩③
- 16:10～16:30 修了式(未来博士号授与式)
- 16:30～17:00 飛鳥戦隊四神ジャー(四神着ぐるみ)との記念写真撮影会
- 17:00 セミナー終了・解散

◆事務局との協力体制

研究支援グループと博物館事務室には、受講生の募集や委託費の管理、日本学術振興会との連絡・調整をはじめ、種々の支援・協力を受けた。また、アルバイト学生に対する謝金や障害保険加入手続き、会場設営にともなう学内関連部署との連絡調整、受講生募集案内パンフレットの印刷・配布の手配、アンケート受領・集計など多岐に及ぶ協力・支援を得ながら、迅速かつ効率的なプログラム推進に努めた。

◆広報活動

研究支援グループと博物館事務室と連携し、近隣の小学校へポスター・チラシの配布を通じた広報活動を行った。また、同日に開催された「キッズミュージアム」(博物館主催)のポスター・チラシに、本プログラムの募集案内を併載して広報した。これらの広報活動により、学術振興会のHPへの応募者(22名)と博物館事務室への応募者(8名)を併せて募集定員30名を充足した。ただし、応募締切後に辞退者(2名)と欠席者(3名)があったため、当日は25名の参加者でプログラムを実施した。



瓦製作の補助をする実施協力者



考古楽カルタ大会

◆プログラムにおける安全への配慮

ワークショップ①で使用する古代瓦の石膏型は重量物であるため、本プログラムの実施時には1班あたり2人の実施協力者を配置し、安全に配慮しながら受講生の作業補助を行った。プログラムの推進では休憩をこまめにとり、水分補給の時間の確保に努め、熱中症や脱水症への対策を行った。

また、猛暑日が継続して当日も高温であったため、屋外にある高松塚古墳壁画展示室の見学は中止した。なお、不測の事態発生に備え、受講生と実施協力者の全員が団体傷害保険に加入した。

◆今後の発展性・課題

本プログラムの中心である古代瓦の復元品製作体験と飛鳥時代の文物を内容とする「考古楽カルタ」大会から構成されるワークショップ①②は、相対的に好評であったと思料する。一方、講義及びクイズ大会は日本歴史を学習していない5年生には、その内容がやや難しいという反応が受講生からあった。

今後のプログラム運営にあたっては対象学年を考慮し、歴史学習に関心を深めつつ飛鳥時代を総合的に理解するプログラム内容と構成にブラッシュアップする必要があるだろう。

なお、副次的な成果として、将来的に教員や博物館園の学芸員を目指す実施協力者にとり、児童と接しながらプログラムを運営する機会を提供できることも、重要な成果であったと判断する。

【実施分担者】

山口 卓也 博物館・学芸員

石立 弥生子 博物館・学芸員

【実施協力者】 8 名

【事務担当者】

森岡 駿 研究支援グループ

高野早百合 研究支援グループ